令和６年度「６０（ロクマル）プラス」優良実践校　実践校報告書

１　実践校名		盛岡市立見前小学校
２　実　践　名		ペップトークで笑顔の輪を広げ、力を高めよう ～６０（ロクマル）プラスプロジェクトの取組を通して～
３　実施対象者		児童　保護者　教職員
４　目　　標		運動・すいみん・食事のバランスのとれた生活を継続し、心身共に元気なからだの育成を図る。
５　実践内容	ア （①・②）	○学校全体で取り組む６０（ロクマル）プラスプロジェクトの継続的な取組【補助資料①】 ○保健部のリーダーシップによる実践【補助資料②】
	イ （③・④）	○ペップトークを意識した指導による体育授業の充実（3 つの輝き（汗・笑顔・歓声）をベースにした体力向上【補助資料③】 ○体育館改修工事に伴う運動環境づくり【補助資料④】 ○まなびフェストのふりかえり（6・12 月）
	ウ （⑤）	○体育授業の場の工夫等による運動量確保の意識【補助資料⑤】 ○運動に対して肯定的な児童の増加 ○感謝して食べる児童の増加
６　成　　果		１．体育授業において、運動学習場面が 50%以上になるよう意識してできた。 ２．工夫した体力づくりにより運動の意欲化（95%の肯定的回答）につながった。 ３．新体力テストのイベント化による意欲の向上とＡＢＣ達成率が７１%に向上した。 ４．質の高い睡眠を意識した取組をすることができた。 ５．食育の学習を通して、給食の残食量が減った。
７　課　　題		１．遊具の老朽化で遊具が使用できない状況の中で、ゴールデンエイジの児童に多様な運動感覚を身に付けさせるにはどうすればよいのか。 ２．肥満傾向の児童への効果的な指導について ３．多様な課題がある中での、食育の指導のあり方 （アレルギー、食の個人差、食べ過ぎによる病気、環境問題、残食、貧困） ４．新体力テストＡＢＣ達成率の目標値（７５%）の達成
８　今後の予定		１．体育館改修工事に伴う冬期間の運動量を確保するための工夫。 ２．食育の継続的な指導

補助資料

①　学校経営の特徴【組織的実践】

６０プラスプロジェクト年間指導計画

月	学校保健重点目標	関連行事	６０プラスプロジェクト				
			基本的生活習慣 ・メディアコントロール ・質の高い睡眠	食習慣		運動習慣	
				食育指導 歯科指導	肥満傾向 児童の指導	体育授業 （重点）	体力向上
4	・健康診断のねらいがわかり、正しい受け方ができる ・自分の体を知る	入学式 １学期始業式 定期健康診断				見小エクササイズ（年間） 体つくり運動	逃走中 ８秒間走
			今年１年の重点の周知と目標の設定　・　運動会に向けて走力アップ				
5	・体や身のまわりをきれいにする方法を知る	運動会 定期健康診断	運動会に向けて生活リズムづくり　・　走力アップ				
			カードでの取組① （早寝・早起き・朝ごはん）	野菜づくり （各学年）		陸上運動系 表現運動系	８秒間走
6	・歯と口の健康を守る方法を知り、実践を心掛ける ・梅雨時の衛生に気をつける	プール開き 陸上記録会 修学旅行	家庭学習学習強化週間①（メディアコントロール）	生産者訪問 （１～４年） 給食ペロリンデー ①		陸上運動系 ボール運動 （ﾈｯﾄ型） 水泳系	体力テスト チャレンジ
			新体力テストに向けて生活リズムづくり・体つくり				
7	・プール使用のきまりがわかり、安全に注意して水泳ができる	体力テスト フェスティバル 期末面談 １学期終業式 夏季休業	まなびフェストのふりかえり①	生産者訪問 （５～６年）	小児生活習慣病予防検診のお知らせ配付	水泳系	体力テスト チャレンジ
			夏の暑さに負けない生活リズムづくり・泳力向上の取組				
8	・夏の健康管理の方法を知り、実践を心掛ける	２学期始業式 水泳のまとめ			体重計測等食事・運動の家庭での取組	水泳系	運動遊び
			夏の暑さに負けない生活リズムづくり・泳力向上の取組				
9	・ケガの応急処置を知る	宿泊学習 市内球技大会	情報モラル教室	栄養教諭による食育		ボール運動 （ｺﾞｰﾙ型）	運動遊び
			生活リズムづくり・ボール運動の取組				
10	・目の健康を守る	学習発表会	カードでの取組② （早寝・早起き・朝ごはん）	栄養教諭による食育		表現運動系 体つくり運動	運動遊び
			食生活のふりかえり・ボール運動・陸上運動の取組				
11	・じょうぶな体づくりを心掛ける	就学時健康診断 校内陸上記録会 （３・４年）	家庭学習学習強化週間②（メディアコントロール）	給食ペロリンデー 食育講話（校長）		陸上運動 ボール運動 （ベースボール型）	ペースランニング
12	・かぜやインフルエンザの予防を心掛ける	期末面談 ２学期終業式 冬季休業	まなびフェストのふりかえり②	収穫を祝う会（５年）		体つくり運動 器械運動	キャッチボールチャレンジ 逃走中
			感染症の予防　・　体育館のない冬場の工夫した体力づくり				
1 ・ 2	・冬の健康管理の方法を知り 実践を心掛ける ・心の健康を保つ	冬季休業 ３学期始業式	カードでの取組③ （早寝・早起き・朝ごはん）		体重計測等食事・運動の家庭での取組	体つくり運動 器械運動	なわ跳び 雪遊び
			感染症の予防　・　体育館のない冬場の工夫した体力づくり				
3	・耳の健康を守る ・健康生活の反省をする	６年生を送る会 修了式 卒業式				表現 ボール運動	なわとび

②　推進体制【各担当者の連携】

★保健部を中心に、各部と学年と連携して進めている

ア. 校内での職員の６０プラスプロジェクトに関する校内体制

生活習慣	1　保健指導	⑴　保健室経営 ・児童の健康管理と健康相談，担任への助言 ・児童の疾病等の措置，連絡 ・定期診断，予防接種，身体測定等の実施，校医連絡，定期診断の準備・補助 ⑵　学校保健指導計画の作成 ⑶　保健関係行事の企画と運営 ⑷　衛生習慣形成の実践活動の企画と運営 ⑸　学級指導資料の提供 ⑹　保健だよりの発行による啓発 ⑺　学校保健委員会の運営
	2　保健事務管理	⑴　保健諸調査の実施，健康診断書の記入・管理 ⑵　保健室備品の管理 ⑶　トイレ，排水等環境衛生の点検，維持 ⑷　採光，保温，換気等の調整改善，消毒
	3　清掃指導	⑴　校舎内外の清掃計画作成と区域配分 ⑵　日常清掃の全般的指導 ⑶　清掃用具の配分と管理
食習慣	4　食育指導	⑴　学校給食指導計画の作成 ⑵　給食用具の管理と整備 ⑶　給食センターとの諸連絡 ⑷　配膳・食事マナーの指導計画作成と実施，給食活動の指導
運動習慣	5　体力向上 体育指導	⑴　年間活動計画の立案と推進 ⑵　体育指導の推進 ⑶　体育指導関連行事計画の立案と推進 ⑷　関係備品の管理 ⑸　体力向上計画の立案と推進 ⑹　体力テストの実施と分析

イ. 組織的な活動について

㋐　児童会による活動
- 保健委員会（校内の保健に関する日常活動と、健康促進に関する活動）
- 体育委員会（業間運動の計画・運営）

㋑　学校保健委員会
- 年１回（12 月）校医さんをお招きし、情報共有と講話

㋒　ＰＴＡ厚生部
- 学校保健委員会の参加
- 市８０２０歯科保健大会の参加
- 児童の保健安全に関する活動

㋓　学習ボランティア（本校の大きな特徴）
- 新体力テストでの測定支援・・・・・・➡
- 校外学習等での支援
- 学校からの要請に応じた授業全般の支援

㋔　ＰＴＡ
- まなびフェストに基づいた年間通した取組（『体』に関わる家庭・学校の目標）

【学校】

○体育授業や見小チャレンジ運動など進んで運動に取り組めるようにします。

【家庭】

○「質の高い睡眠」を重点に「早寝・早起き・朝ごはん・運動」等基本的な生活習慣を身に付けるようにしましょう。

㋕　学年・学団
- 日常的な健康教育指導
- ふれあい活動（異学年交流）

㋖　小中連携
- 見前中学校陸上部との合同練習会➡

③　特徴的な実践【特色を生かした工夫】

ア　ペップトークを意識した指導による体育授業の充実（3つの輝き（汗・笑顔・歓声）をベースにした体力向上

㋐　体育コーディネーターによる体育的3つの間（時間・空間・仲間）の調整
㋑　授業のパッケージ化
㋒　客観的授業分析による授業研究（コーデイングシート等）
㋓　体育授業のための体育授業コーディネーターによる環境づくり
㋔　スポーツ教育モデルに基づいた単元計画
・単元のまとめとしての学年スポーツ大会の計画・運営

【資料－１】ペップトークを意識した指導・生活をするために

○職員・保護者・児童が学ぶ場の設定
・4月12日（金）職員校内研修会の実施（年度初めに行うことで目指す指導の共有化）
・7月16日（火）ＰＴＡ教養部主催親子ペップトーク講習会（児童・保護者との共有化）
講師：吉田浩規　日本ペップトーク協会　認定講師）
演題：『ＰＥＰ　ＴＡＬＫ～やる気を引き出し、信頼関係を築く言葉の力～』）

職員研修会

校報　７月２５日号より

○実際の授業を通した学びと目指す姿の共有
・校内研の活用：本校は全員参加の授業を共通テーマに自己課題解決型の研究を実施
・６月　２年ゲーム（ボール投げゲーム）の授業
・教師の相互作用行動（１時間内に教師の発するフィードバック言語）の記録

教師の相互作用行動の記録

			個人			集団			合計
			15		30	15		30	
発問									
フィードバック	肯定	一般							
		具体							
	矯正	一般							
		具体							
	否定	一般							
		具体							
励まし									
合　計									

【資料―２】授業のパッケージ化（運動量の確保と効率的な授業準備）

○基礎感覚づくりを養うためのパッケージ
・見小エクササイズ
・セットメニュー

○用具等のパッケージ
・用具の工夫
・準備後片付けしやすいようにする
・場づくりのサポート（ライン引き等）

【資料３】スポーツ教育モデルに基づいた単元計画

○大単元構想

・単元を細切れでなく時間をかけて育てる（技能面だけでなく、学びに向かう人間性等の向上）

○単元のまとめの学年スポーツ大会（校内陸上記録会・ティーボール大会・シャトルラン大会）

・具体的な目標設定

・モチベーションアップ

・リーダーの育成

【ティーボール：成果】
単元前半⇒判定を巡るトラブルの続出・泣く子・不満を言う子
単元のまとめ⇒自主的な運営・教師の手から離れる・ペップトークが広がる

【陸上運動・シャトルラン成果】
○個人の記録の伸びを得点化し、合計することで個の運動を集団化した。
○応援を通して、ペップトークが広がった。
○保護者が参観できるようにしたことで更に盛り上がった。
○ペースランニングの取組を通して運動の生活化につながった。

イ　「体育的行事の改善」（授業の学習内容と体育的行事の関連）

㋐　体育授業で学習してきたことをベースにした運動会

○　儀礼的なものを少なくしたシンプルな運動会

・開会式の入場行進なし

・閉会式は陣地の椅子にすわって行う。

○　徒競走は１～4 年は５０m走、５～６年は８０m

・授業において走り方をしっかり学習する。

・8 秒間走を主教材として学習する。・・・・・・・・・・・➡

・学習指導要領に基づく児童の発達段階に応じた距離で学習することで、何度も練習できる。

○３学年の玉投げゲーム（投運動のまとめとして）

㋑　新体力テストのイベント化

・「スポーツテストフェスティバル」として、全校が一丸となって取り組めるようなしかけづくり。

体力テストフェスティバル

あと1回・あと1cm・あと 0.1 秒　がんばろうとする気持ちを育てる

６月は新体力テストの実施月でした。このテストは文科省が国民の体力・運動能力の現状をあきらかにし、体育・スポーツの指導に生かすために、昭和３９年から始められたものです。世界でもこんなに長期間にわたって調査している例はありません。しかし、測定に時間がかかるわりに、目的を考えず、ただ測定だけで終わったり、結果を十分活用できていなかったりするのが課題でした。

本校では、その課題を解決できるようにし、運動に楽しむきっかけの一つとなるように手立てを考えました。『体力テストのイベント化』です。

①見小エクササイズを体育授業の準備運動として位置づけ、身に付けさせたい動きの中に、意図的に測定項目もちりばめ、年間を通して体を耕す。
②測定項目のポイントを図や動画で示し、目標数値を示すことで意欲化を図る。
③全校集会で、前向きに取り組めるよう意欲づけをする。
④2 年生以上は昨年の結果をもとに、目標を設定して取り組む。
⑤A段階達成者への表彰

全力発揮のポイント①
音楽がゆっくりのときは
ゆっくり走る!

全力発揮のポイント②
出だしで
スピードアップ!

自分の目標を立てよう

点数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
男子	7	8	10	15	23	33	45	57	69	80
女子	7	8	10	14	19	26	35	44	54	64

昨年の自分の記録をもとに各種目の今年の目標を決めたことで、目標が具体的になりました。ＡＢＣ達成率７５%以上という学校目標もありますが、『○回以上できたから○点だ。』『去年より○回増えた。』『あと、○ｃｍで１０点だったのに。』と掲示板を見ながら話す子ども達の姿から取組の成果を感じました。友達の声援も大きな力でした。粘り強い気持ちも高まったと思います。学習ボランティアの皆様にもたくさんご協力いただきました。ありがとうございました。

測定種目のポイントと目標値の掲示

A判定者の全校表彰

校報　６月２８日号より

＊いわてスーパーキッズについて意欲が湧くような手立てを組むことで、多くの児童が挑戦しました。

ウ　子どもが楽しくできる体力づくり

㋐　業間運動の工夫

・遊びの要素を取り入れた運動遊び（逃走中・キャッチボールチャレンジ）

㋑　チャレンジ運動の設定

・毎月重点的に行う運動を紹介して取り組む（体育授業との連動）

④　継続可能な計画（作成状況、評価）【継続可能な実践】

ア　体育館改修工事に伴う運動環境づくり

・近隣の体育施設の確保
・使いやすい学習環境づくりの整理
・体育授業コーディネーターやスクールサポートスタッフによる支援

イ　ゲストティーチャーによる指導とサポート体制

・食育・食に関する指導
・情報モラルに関する指導
・保健指導に関する指導
・学習ボランティアによる支援

ウ　定期的なふりかえりの実施

・まなびフェスト（７・１２月）によるふりかえり
・６０プラスプロジェクト習慣のカードを活用した取組

オ　ＰＤＣＡサイクルによる実践

・改善点については次回の取組に生かしている。
・新年度計画の作成（3 学期から）

⑤　よりよい生活の確立への期待【よりよい変容の期待】

ア　体育授業の場の工夫等による運動量確保の意識

・授業参観を通し、自分の授業の改善を図ることができた。
・体育館がないことで、より工夫することができた。

イ　運動に対して肯定的な児童の増加

・工夫した取組により運動に対して肯定的な回答は９５％であった。今後も、継続して取り組んでいきたい。

ウ　感謝して食べる児童の増加

・食育指導を通して、少しずつ気持ちが高まってきている。